

6) ブーゲンビレア

ブーゲンビレアはオシロイバナ科のツル性低木で、原産地は南アメリカである。茎は長く伸びて刺があり、葉は卵形または楕円状披針形で葉柄がある。新しく伸びた枝先に、花卉に似た大きな3枚の苞葉に包まれた黄白色の小さな花をつける。花のように見えているのは苞葉で、ピンクや赤色、洋紅色、オレンジ色など極めて多彩で、中には花の咲き出しから少しずつ濃度を増してくるような品種もあって美しい。和名の由来は学名の属名をそのまま用いたもので、別称としてはココノエカズラ、イカダカズラ(筏葛)などがあり、学名は『*Bougainvillea spectabilis*』である。属名は人の名によるもので、1766年ルイ15世の命により未知の大陸発見の探検に出かけたフランス艦船の船長、ブーゲンビル(1729~1811)の名前である。この船で同行した博物学者のコメルソン(1727~1773)が、リオデジャネイロで未知の植物を発見し、艦長の名を冠して新しい属を作ったものである。ブーゲンビレアをうまく咲かせるには、花後、思い切って深く剪定し、新しい芽を多く出させることである。しかし冬は屋外で越冬するのは難しく、室内か温室で管理する必要がある。

この木の繁殖も主に挿し木であるが、種子から育てることもできるし、また成長も早い。ただ種子から育てる場合は親と同じ花が咲くとは限らないので、挿し木の方が無難である。鉛筆ぐらいの太さの枝が良く、もっと細くても活着する確率はかなり高い。季節は播種の場合も挿し木の場合も三月下旬ごろが良く、寒さを嫌うのでできるだけ暖かくして育てる方が良い。1ヶ月ほどで形成層から肉のりがして、発根を始める。夏の頃には立派な苗木になるはずである。ただ最初の年は冬の寒さに特に弱いので、冬場に気温が5℃以下にならないようにすることが大事なポイントである。

さてブームの島唄(03-01-05)がはやった同じ年の夏、松任谷由実の『真夏の夜の夢』も大ヒットして、当時はこの二つの歌が世の中を2分したような感じだった。ヒット曲のほとんどのものは、テレビドラマの主題歌とセットになって流行ることが多かったが、『真夏の夜の夢』はユーミンが初めてタイアップした曲で、ドラマ『誰にも言えない』の主題歌になっていたものであった。ユーミンが4年ぶりにシングルで発売し、シングルチャートで第一位になった曲でもある。

真夏の夜の夢

骨まで溶けるような テキーラみたいなキスをして
夜空もむせかえる 激しいダンスを踊りましょう

私 遠い夢は待てなかった

最後は もっと私を見て
燃えつくように
さよなら ずっと忘れないわ
今夜の二人のこと
花火は舞い上がり
スコールみたいに降りそそぐ
さらさら思い出が
いつしか終わって消えるまで

あなたの影 私だけのものよ

最後は もっと抱いて抱いて
息もできぬほど
さよなら ずっとアモーレ・アモーレ
この世であなたひとり

踊るライト まわるダンスフロア

カリビアン・ナイト もっと私を見て
燃えつくように
さよなら ずっと忘れないわ
今夜の二人のこと

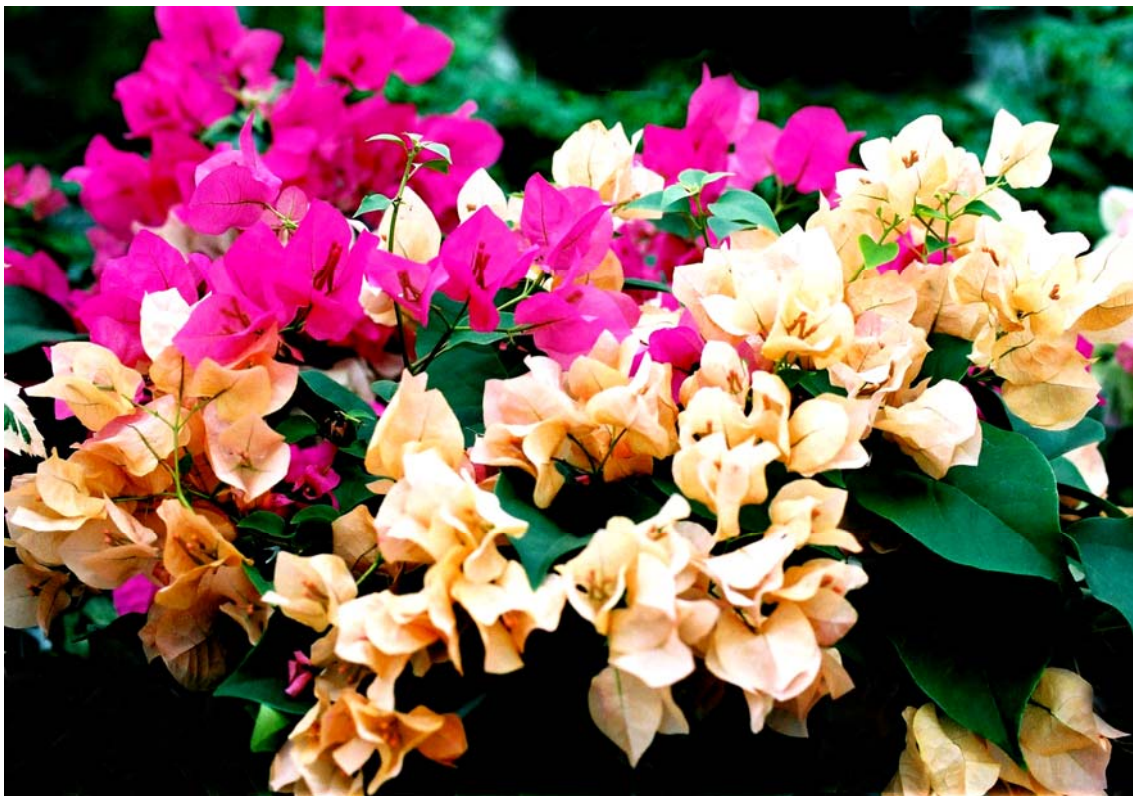
最後は もっと抱いて抱いて
息もできぬほど
さよなら ずっとアモーレ・アモーレ
この世であなたひとり

カリビアン・ナイト ああふけてゆくわ
もりあがるリズム
さよなら ずっと忘れないわ
今夜の二人のこと

1993年夏、ユーミンの全盛時代で、深夜までこの曲が流れていた。カリビアン・ナイトの意味は定かではないが、この花は『真夏の夜の夢』を彷彿とさせる南国の花なのである。



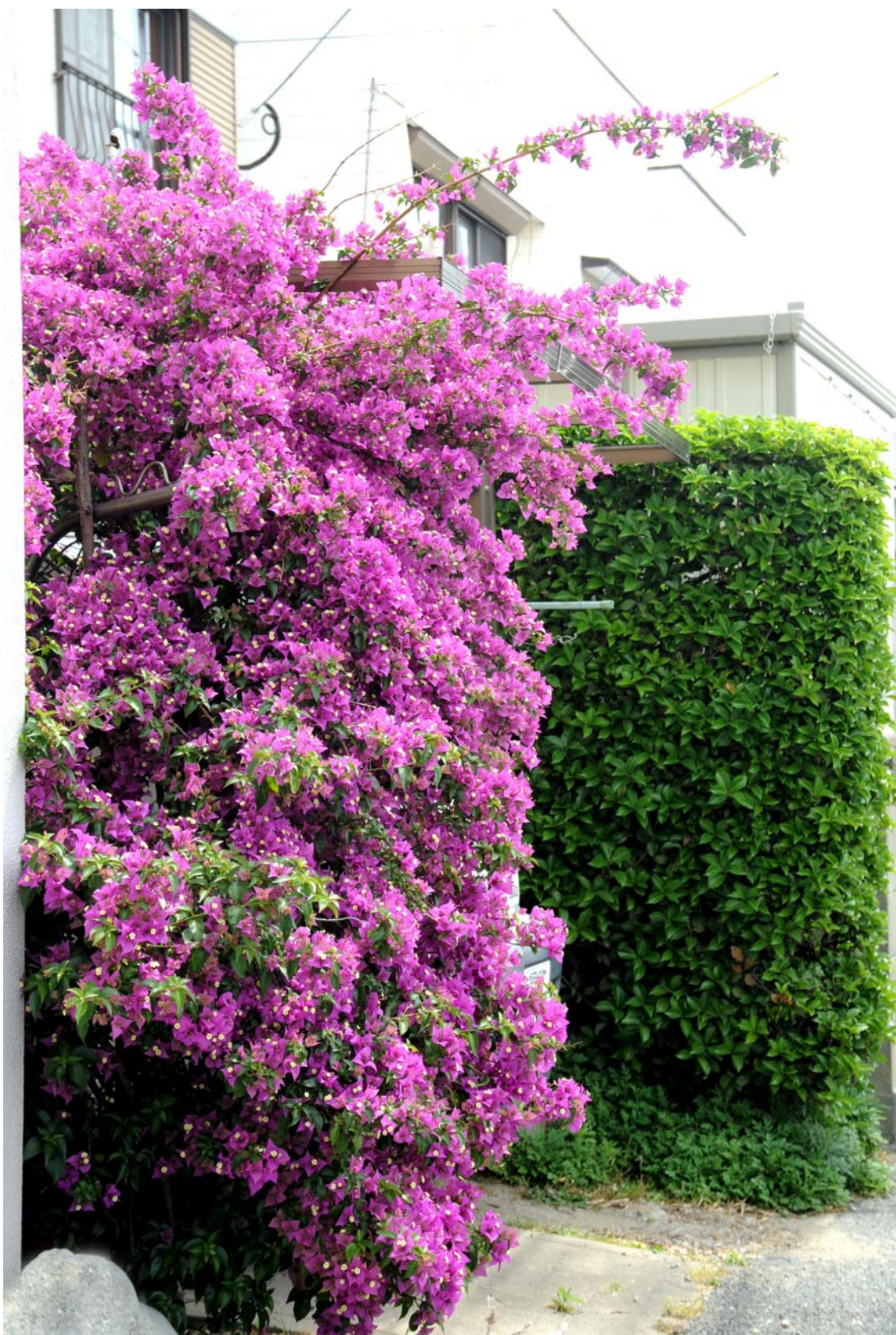
ブーゲンビレアの原産地は南アメリカで、花卉に見えているのは苞葉である。花は白いラップ状であるが、退化していて分かりにくい。日本で育てるには冬は加温が必要である。



ブーゲンビレアの花、最近ではいろいろな色の花を楽しむことができる。



ブーゲンビレアの花、今では白からピンク、紫、オレンジなどいろいろとある。



ブーゲンビリアは九州や四国などの暖地では屋外でも越冬できる(福岡県糟屋郡)

[目次に戻る](#)